

「新しく 確かな霊を授けて下さい」

詩 編 27 : 13 - 14

使徒言行録 2 : 1 - 4

森島 惠 牧師

「今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています」（ローマの信徒への手紙 5 : 2）。これは、バプテスマを受けた私に贈られた聖書に書き添えられたパウロの手紙の一節です。たとえ教会生活、信仰生活から離れるようなことがあっても、神は決して人を見捨てることなく、聖霊を通して人を捉え、働いていて下さいます。悲しい時、苦しい時にも、＜聖霊は今も生きて働かれ、私たちに寄り添ってくださる＞、これは私たちの教会の信仰です。

ペンテコステによって各地に遣わされて、主イエスの出来事を証しした群れが、二千年後の今もキリスト教会の群れとして継承されているというのは、聖霊の導きによる以外の何ものでもありません。私たちが今こうして礼拝に出席しているのは、自分の決心によるのではなく、目に見えないけれども私たちに働きかけて下さる聖霊の力がお一人お一人に臨んでいるからだとは私は信じます。

今朝与えられた交読詩編 136 : 1 - 3 には、

「恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。神の中の神に感謝せよ。慈しみはとこしえに。

主の中の主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。」と謳われています。信仰の生涯を歩む私たちの地上の命は、神が聖霊を注いでくださることによって、神のものとして尊く用いられるのです。

ご一緒に讃美した讃美歌 342 は、祈りの言葉です。

- 1 神の霊よ、今くだり わが心動かして 弱き身を強くなし 愛に歩ませたまえ。
- 2 主なる神 愛せとのみことばに従いて 主の十字架仰ぎつつ み旨を示したまえ。
- 3 主よ、共にとどまりて 疑いと争いの わが心うちくだき 力を与えたまえ。
- 4 主の深き愛をもて わが心燃え立たせ 魂も身も献げ 愛に生かしめたまえ

この詩で歌われているように、神の霊（聖霊）こそ私たちが信仰の生涯を送るために感謝して受取るべきものです。私たちの目には見えないけれど、確かに聖霊が働いて下さっているからです。本日与えられた詩編の言葉は、神を信ずる群れが幾たびも困難の中に置かれたことを思わないではられません。

「わたしは信じます 命あるものの地で主の恵みを見ることを。

主を待ち望め 雄々しくあれ 心を強くせよ。

主を待ち望め。」（27 : 13 - 14）

ペンテコステ（聖霊降臨）の出来事は、過越祭から五十日後に行われる収穫感謝祭（五旬祭）の日に起こりました。エルサレムには収穫感謝祭のために、各地方から来ているユダヤ人で一杯でした。使徒言行録には、＜アラム語かギリシャ語しか話せないはずのガリラヤ出身の弟子たちが聖霊に満たされて、エルサレムに滞在していた人々のさまざまな故郷の言葉を話し始めた＞ことが記されています。そして、これを見た人々が驚きとまどう様子が記されています。これが使徒言行録 2 章に記されている＜聖霊降臨＞の出来事です。

「聖霊よ、降りてむかしのごとく くすしき御業を現したまえ。

代々にいます “霊” なる神よ。来たりてこの身に満ちさせたまえ」（讃美歌 21 - 343）。

この讃美歌の祈りの詩に心をあわせて、私たちは祈る群れとして歩んで行きましょう。＜聖霊よ来て下さい＞と、祈らずにはられない私たちの生活の中で、互いに赦し合い、祈りあって歩んで行きましょう。かつて弟子たちに注がれたように、皆様お一人お一人の上に主の聖霊が豊かに注がれますよう心から祈ります。

（要約 羽入田悦子）